

清流のほとり



令和7年10月1日(水)発行 園長 津田 将美 寄 松田

カラー版はHPで…幼稚園HPのQRコードです↑

まわり道

園庭から、園舎から、子どもたちの元気な声が響き渡ってきます。応援する声、励ます声、共に喜び合う声、そして残念がる声…。そのどれもが、子どもたちの一生懸命さ、前向きさを表しているようで、大人の心にも火をつけます。

各クラス担任は、子どもたちの発達段階、願いや想いに合わせて柔軟に運動会のプログラムを進化(深化)させています。そして子どもたち自身で課題ややりがいを見つけ、仲間と共に一人ひとりの想いに共感しながら競技を創造していけるように配慮しています。

運動会の練習が佳境に入ってきた9月中旬、年長さんのリレー競技にラインが追加されました。練習後の話し合いの中で、今までのオープンなコースだとバトンパスがうまくいかないことから、コースを分けるといいのではないかと意見が出たそうです。【右下図参照】

この様子を見た体育畑をずっと歩んできた園長は、思わずつぶやいてしまいました。

「いや、これじゃあ明らかに2コースが不利だよ…」

がまんできずに、練習中の担任のところに行って伝えました。

「これって、いいの？走る長さが違っちゃうよ。」

「いいんです。子どもたちから出た意見なので、実際にやってみて試しているんです。」

「えっ、えっ…、そうか…な、なるほど…」

これって、すごくないですか？

園長は、思わず誰にともなくそうつぶやいていました。

この後、子どもたちは試してみた結果を受け、話し合い、実際にすずらんテープで分かれたコースの長さを比べてみて、このやり方を行わないことを決めていきました。

この活動は、一見まわり道に見えるかもしれません。

でも、自分たちで考えたこと、自分たちで確かめたこと、自分たちで決めたことを積み重ねてきた過程は、より良く前向きに生きるための資質につながるはずです。

年長さんのリレー競技にあこがれをもって応援している年中さん、年少さんにも、その華やかさだけではなく、もっと大切な競技を創り上げる本質が年々引き継がれているように感じます。

年中さんも、年少さんも、自分たちの想いを積み上げ、すてきな競技を創造中です。保護者の皆様、地域の皆様も、その過程を是非応援してください。

